



本日の例会：2020 年 11 月 20 日 通算 1578 回 本年度 第 17 回

卓話：「温暖化ガス 2050 年ゼロ」表明とは？」株式会社 住環境計画研究所 代表取締役会長 中上英俊 氏

● 第 1577 回 例会報告 / 2020 年 11 月 13 日

出席報告：会員 47 名 29 名 (内 ZOOM 11 名)

ゲスト：斎藤岳志、銭海英、伊敏

ビジター：安東桂子(東京城南 RC)、遠藤園子(東京
グローバル RC) 計 5 名 (順不同・敬称略)

卓話：イニシエーションスピーチ 関野 雄志 氏



会長報告：

① ロータリー財団より、PHF のバッジが届きました。

村山公士 君 (PHF + 2) 尾関武男 君 (PHF + 2)

ティエリ・コンシニ君 (PHF + 1)

入沢頼二 君

(PHF + 3)



② 指名委員会 小林委員長より次年度理事役員の報告

12 月 4 日 (金) 例会にて年次総会を開催いたします。
本日指名した候補者以外の指名がなければ、指名委員会
が指名した候補者が当選となります。

指名委員会は、次年度 (2021～2022 年度) 理事・役員
候補を次の通り指名致します。(敬称略)

役員 (会長ノミニ一)

2022～2023 年度会長・副会長 穂苅裕久

役員 (幹事) 福田栄二 / 役員 (会計) 金山 驍

理事 森本勝好 / 理事 中森 真紀子

理事 永 滋康 / 理事 谷口 友保

理事 石井 謙次 / 理事 岩上 義明

理事 鈴木 貞史 / 理事 (直前会長) 熊本 誠司

慶事披露：

誕生日祝い

小林博茂 君 (11/7 生)



11 月 13 日 11 件 23,000 円 累計 380,000 円

多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

コンシニ/河邊幸夫/岩上義明/石井謙次/小林博茂/
入沢頼二/穂苅裕久/大谷啓子/福田栄二/関野雄志/
鵜飼光美

今 後 の 予 定	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
	11 月 27 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：「潜在ニーズからの商品開発」 株式会社カンミ堂 代表取締役 末永 卓 氏
	12 月 4 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会 総 会	クラブ総会
	12 月 11 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：「習近平の野望」 中国鑑測家 (元住友商事総合研究所中国専 アナリスト) 北村 豊 氏
	12 月 18 日	18:00	B1 グローリー ANA インターコンチネンタルホテル東京	夜間例会 忘年家族会	久住庄一郎氏 & 泉晶子氏リサイタル

質問7. 日常心がけていることを(もしあれば)教えてください。

- ・会社の事業継続と社員の健康、顧客へのサービスの充実。感染拡大防止。
- ・特にありません。運動不足で体力低下と体重増加が顕著なので、これからは運動を心がけます。
- ・コロナを踏まえて、仕事の在り方などを大きく舵切りしなければならないと考えている。具体的にはネットをもっと営業などに取り入れる方法をより加速させなければならない。とはいえ業種的に難しいところもあるので、どのような形でネットを使った情報発信を加速させていくかについて、ここ半年は頭を悩ませている状況。
- ・高齢者が家にいますので、多人数での会食は家族全員控えております。
- ・ニューライフスタイルへの順応
- ・うがいや手洗い、感染のリスクを少しでも減らすことを心がけています。
- ・最近、マスクをするように気を付けています。
- ・健康・体力・知力維持のため、散歩などを毎日行っている。
- ・謙虚に、素直に、謙譲に
- ・人との接触を減らし、外出自粛や野外活動を制限しております。
- ・毎日の感染予防に気をつけています。部屋に入る前には、うがいと必ず石けんでの手洗いとアルコール殺菌をして電車に乗る時は、あえて着席をして、つり革や手すりを使わずに済む様にしています。いろいろ触った手で顔や口に触らない様にしています。触る時は、携帯の除菌シートで手を拭く様にしています。
- ・公共の場所での3密、マスク、手洗いを強く強く意識する。
- ・手洗いは非常によくするようになりました。
- ・他のクラブの会員からどのような活動をしているか聞いています。多くは親睦活動は控えていました。
- ・運動不足になるので、毎朝5-8千歩程度歩くようにしている。
- ・手洗い消毒、生活リズムを整えること。免疫力アップ。
- ・個人で出来る、感染防止対策を実施する。
- ・不要不急という言葉に気を付けて、有用至急?(こんな言葉はないとおもいますが)のことは、進めるようにしている。
- ・知らない人の近くに長く留まらない。
- ・コロナ感染防止対策。
- ・マスクの着用。飲み会には(極力)参加しない
- ・コロナ禍は、短期間では終了しない。早くても来年7~8月ごろまでは続くと覚悟し、今は他人に絶対迷惑をかけない様、我慢の時期と考えています。
- ・出来る限り健康に注意して長生きしたいと思います。

質問8. 「今、思うこと」を教えてください。

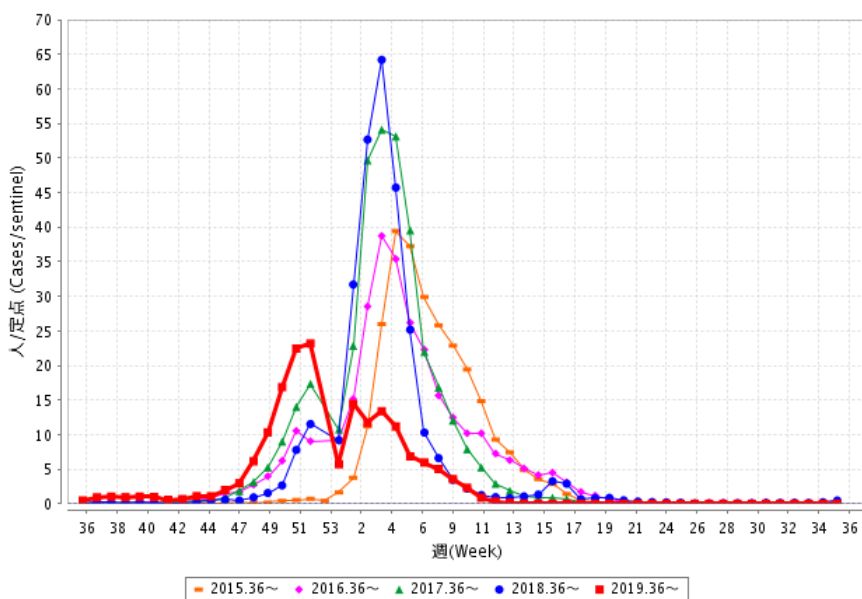
- ・RCはこれで良いのか、意義や存在理由を自問しながら、時代と社会の変化に対応していく必要があり、今がその時期と考える。原理主義者にはなりたくない、宗教的なとらえ方もしたくない。
- ・コロナによって生じる様々な変化に対応するために、急に忙しくなってきました。(どの会社も・公的機関もおなじでしょうが) 仕事でもプライベートでも、変化に対応していかないといけないと思います。
- ・いつかはこのコロナ問題は収束する筈ですので、前向きに新しいことにも取り組んで過ごしていきたいと思っています。
- ・ニューライフスタイル下での理念をどうするか。
- ・コロナに関する考え方は人それぞれなので、お互いに相手を思いやる気持ちが大切だと感じています。
- ・コロナにうつらない、うつさないが大切だと思っています。
- ・すでに70歳を超え、コロナ禍もあり、死を我がこととして意識するようになった。幸い、集中して思索する中、趣味の世界でひらめきがあった。この至福の状態を維持したい、そのための努力を怠らないという気持ちです。
- ・コロナ禍に負けずに、安全と安心に留意して、立ち向かって行動開始
- ・この時期を上手に乗り越えて、今できていない事をより活発に活動できる日を気長く待っております。
- ・他人数の会食を伴う行動はできるだけ避けたとしても、少人数(1対1、1対2等)での打合せ等は、直接リアルで会って行う方が良いと感じています。
- ・世界中が、コロナで移動禁止になるなんて事は、誰もが想像さえ出来なかったことと思います。この状況で、世界中の方がパニックになっているのが現状だと思います。人の活動が出来ないと、経済に大きな影響が出ますので、それぞれが自己責任で対策を取ることが必要だと思いますが、若い人たちは、感染して当たり前の様な行動をする方達もいます。自己責任で、感染しない行動を取って頂きたいと思います。そうすることで、インフルエンザの感染も少なくなります。

- ・自らが感染者であるという自己暗示のもとに、人との接触に心がける。
- ・親睦会での集団感染発生は起こしてはならない。
- ・この2年は雌伏の時か。体力気力の充実を図る
- ・Face to face で人と会うことの大切さをあらためて感じた。
- ・早く、ワクチンが出来ないか、心待ちにしています。昔の生活に戻りたいです。
- ・収束まで3年のつもりで、人生の中で、この3年間をポジティブに過ごすことを探しながら、すごしている。
- ・アフターコロナの世界が明るいことを祈っています。
- ・最近入会された方とのコミュニケーションが必要だと思います。特にコロナ前後に入会された方はまだ馴染めていないと思いますので。
- ・仕事以外に趣味が無いので、残りの人生を楽しく仕事に打ち込みたいと思います。

質問9. その他、なんでもお書きください。

- ・赤坂のみならず、ロータリークラブはもっと前面にたってコロナ禍で困った人たちをサポートする活動をすべきだと思う。現時点ではほとんどロータリークラブは社会の役に立っていないのではないかな。何のための社会奉仕団体なのか疑問に思わなくもない。
それともうひとつ、上記は対外的な奉仕活動の点だが、ロータリークラブ内でもコロナ禍で大ダメージを受けた人たちがたくさんいるはず。そのような仲間をロータリアンがお互いに助け合うようなロータリー内部での互助の活動も積極的にすべきと思う。そうすれば相互の信頼関係が高まり、脱退防止のみならず新規会員の増強にも資すると思う。
- ・今回のコロナ禍は、バイオ兵器を使ったテロや戦争が世界規模で実現可能であり、このような厄介な脅威に人類が常に備える必要性を突き付けた。
- ・いつも協力できずご迷惑をお掛けしてしまい、本当に申し訳ございません。コロナが落ち着いたら、しっかりと役割を担えるように頑張りますので、ご理解をよろしくお願い申し上げます。
- ・現在行われている Zoom は何時までと期限を切り、期限時に改めた方が良いでしょう。
- ・奉仕プロジェクト委員会の皆さん、ご苦勞様です。昨日の親睦活動委員会の zoom 会議でも話したのですが、この機会にロータリー活動の聖書を作ったらどうかと思います。というのはロータリーの解釈が各人各様で、新入会員をリクルートするときに、しっかりしたマニュアルがなく、募集活動に格差が出勝ちである。
- ・コロナだけでなく、例年のインフルエンザでの死傷者も 3000 人を超えています。2019 年の 1 月の日本でのインフルエンザ死亡者は、1,685 人で 1 日当り 56 人にも成ります。
これは、治療薬の出ているインフルエンザでの死亡者です。現在の感染対策で、いかに多くの方達が生命を助けられているか分かります。
今回の Go to キャンペーンで多くの方が旅行に出かけられます。ホテルなどは、高額な部屋から満室になっています。多くの方が、自粛期間中のストレスを絶えていた証拠だと思います。今後治療薬が発売されると、一気に自由に活動されることになると思いますが、インフルエンザと同様、感染対策をしなくなると感染者も、重傷者も、死者も増える恐れがあります。
行動を自粛するよりも、感染対策に気を遣うことが重要だと思います。

赤線が昨年から今年に欠けての東京都の感染者です。コロナの影響でピークが起きていません



©2002-2020 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health